



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1/TEL 045-628-6100(代)
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

●発行：2019年9月 医療連携センター

Contents

- ・ 院長就任のご挨拶 P1
- ・ 大腸癌治療の現状 P2
- ・ 切らずに治す脳血管内治療 P3
- ・ 腎臓内科の特色 P4

院長就任のご挨拶

横浜市立みなと赤十字病院 院長 伊藤 宏



皆さま、日頃よりたいへんお世話になっております。

横浜市立みなと赤十字病院の伊藤と申します。

本年6月1日付で病院長に就任いたしました。

まず簡単に自己紹介をしますと、私は昭和55年

東京医科歯科大学卒業の循環器内科医で、東京都出身です。平成15年に秋田大学循環器内科の教授として秋田に赴任しまして、本年5月まで16年間にわたり、秋田県で循環器医療や地域医療、そして若手医師育成などに関わる仕事をまいりました。

この度、ご縁があって、みなと赤十字病院に勤務することになりました。以前から横浜はあこがれの街でしたので、この地で仕事ができることをたいへん幸せに思っています。

秋田から横浜に来てみて強く感じることは、横浜は地域の医療システムが非常に充実している、ということです。秋田に比べて医師数などの

医療資源に恵まれていることはもちろんですが、それらを活かす医療全体のシステムも、しっかりしていると思います。例えば横浜市内の病院の配置ひとつとっても、基幹病院が比較的均等に分布し、守備領域があまりオーバーラップしていないように配置されていますし、それぞれの基幹病院を中心とする病診連携、病病連携のネットワークも充実しています。これは長年にわたる地元の医師会や地域の医療に関わる皆さまの不断の努力の賜だと推察いたします。

みなと赤十字病院はそれら基幹病院の一つとして、横浜市中区をはじめ、南区、磯子区、西区などから多数の患者さんを受け入れています。特に救急医療に力を入れており、年間の救急車の受け入れ台数は、全国でもトップクラスの数を誇ります。それに加え、癌や循環器医療など、すべての分野で「断らない医療」をスローガンに活動を行っています。

これからも地域の基幹病院として、地域医療の連携をますます強化していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

大腸癌治療の現状

大腸外科 部長 大田 貢由

一、大腸癌の疫学

大腸癌は日本では男女とも増加傾向にあり、その生涯罹患率は男性で11人にひとり、女性で13人にひとりです。例えばそれほど混んでいないバスの中にも大腸癌になる人がひとりやふたりはいると言える感覚がわくでしょうか？

二、大腸癌治療の実際

大腸癌は遠隔転移がなければ手術をすることでおよそ70-100%近く治癒が見込めます。一方、遠隔転移のある癌は、転移を含めた切除をおこなっても治癒は10-20%以下しかないので、抗がん剤を用いて生存期間を延長させる手段をとることになります。ただし、抗がん剤では大腸癌の治癒は期待できません。このため、大腸癌はなるべく転移のない状態で発見し、直ちに適切な手術治療を受けることが重要だということを強調したいと思います。

三、大腸癌手術の現状

大腸癌に対する手術は、直腸癌の一部を除いて、

難易度はそれほど高くありません。ただし、近年大腸癌の40-70%に対して腹腔鏡手術がおこなわれるようになり、患者も希望するようになりました。問題は、腹腔鏡手術は開腹手術よりも難易度が高いということです。このため、大腸癌に対して腹腔鏡手術を希望されるなら、病院については少し吟味が必要かもしれません。私個人の意見では、

①大腸癌手術症例が年間150-200例以上ある

②腹腔鏡手術割合が80-90%以上である

③大腸癌や腹腔鏡手術に関するsubspecialityのライセンス(日本大腸肛門病学会の指導医や日本内視鏡外科学会の技術認定医など)を持った医師が治療にあたっている

上記3点が、ひとつの指標になるかと思います。

みなと赤十字病院大腸外科は、上記指標を満たしています。最新のロボット手術も取り入れ、スタッフ一同、質の高い大腸癌治療に取り組んで参ります。



川口医師

清水医師

渡部大腸
外科医長

大田大腸
外科部長

河原医師

林研修医

切らずに治す脳血管内治療

脳神経外科 副部長 豎月 順也

脳血管内治療は、脳血管障害に対する脳神経外科の一分野として発展を遂げてきました。

近年の治療機器の進歩や超高齢化社会に伴う脳血管障害の増加により、急速に需要が拡大しております。当院では、2018年4月に私、豎月順也（H16年愛媛大学卒、副部長）が赴任し、脳血管内治療を開始しました。

脳血管内治療とは、皮膚を切ったり頭蓋骨に穴を開けたりせずに、カテーテルという細いチューブを血管の中に入れ、血管の中からアプローチして、脳や脊髄の血管の病気を治療する方法です。脳動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳動静脈奇形塞栓術、硬膜動静脈瘻に対する塞栓術などが挙げられます。一般的な外科手術（開頭手術）と比べて、侵襲が少ない点が特徴ですが、“侵襲が少ない治療”として過剰にもてはやされているきらいもあります。患者さんの状態によっては、開頭手術をお勧めすることもあります。

血管内治療で全て治療できるわけではなく、患者さんそれぞれに応じて開頭手術と血管内治療のどちらが望ましいか、ご相談していきます。

また、2018年4月より、ハイブリッド手術室が稼働しております。症例によっては、開頭手術と血管内治療を組み合わせることにより、安全性、確実性の高い治療を選択することが可能となっています。

神経救急疾患において、救急科、神経内科と協力し、24時間365日対応しています。脳卒中、特に急性期脳梗塞に対する血栓回収療法は、タイミングを逃さない素早い初期対応、外科治療、再発予防に向けた原因精査・内科管理が重要となります。また、脳卒中は、全身疾患であり、心房細動や腎機能障害などを合併していることが多くあります。他科との緊密な連携を図り、脳神経外科・神経内科だけでは実現しえない質の高い専門的な脳卒中診療を目指して努力してまいります。



脳血管内治療風景



脳神経外科・神経内科医師

腎臓内科の特色

腎臓内科 部長 藤澤 一

みなと赤十字病院腎臓内科は、現在7名の医師で診療を行なっています。我々が目指しているのは、質の高い医療を提供し病気をみるだけでなく、患者さんの生活の質(Quality of Life)も考慮し、信頼される医療を行うことです。

①慢性腎臓病・療法選択

2017年度から腎臓チームが結成され、外来指導・教育入院そして腎臓病教室を通じて、より良い医療を実現できるよう、多職種で活動をしています。深い理解を得た上で療法選択が行えるよう、従来の療法選択外来だけでなく、peer learningや腹膜透析・血液透析オリエンテーションを行うなど工夫をしています。

②腎炎・ネフローゼ症候群

腎生検を積極的に行い、診断・加療へ結びつけ

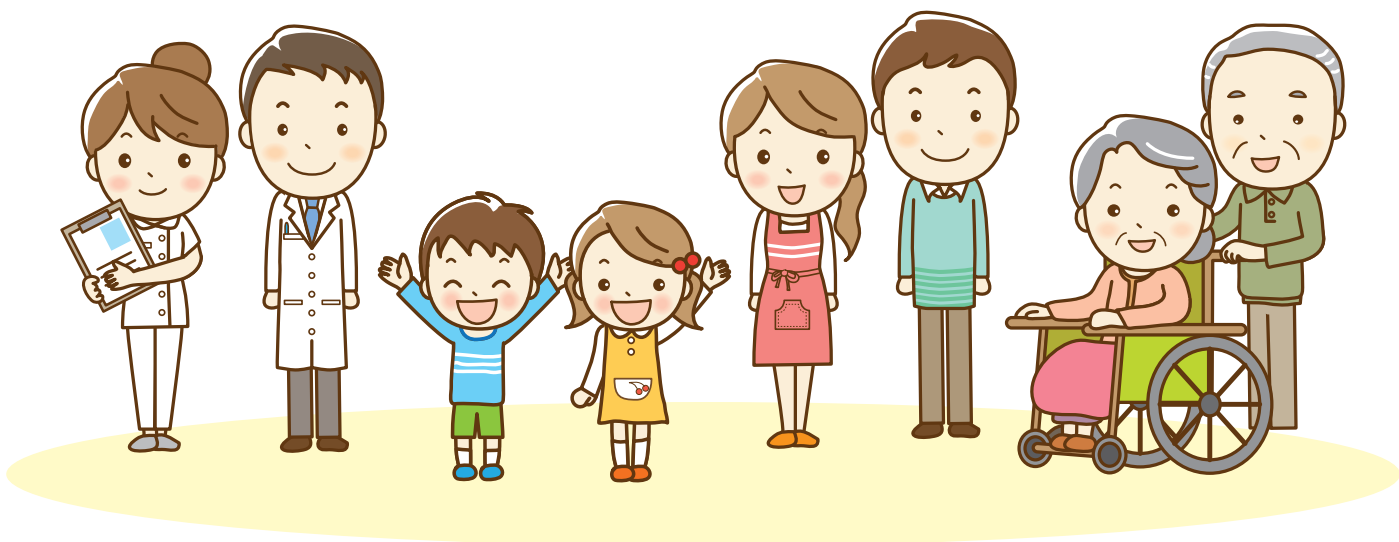
ています。最近では、大学と連携し、遺伝子診断なども活用し、診断精度を高めています。

③腎代替療法に関連したアクセス治療

透析シャント手術・シャントPTAや腹膜透析カテーテル留置を行なっています。緊急時対応も365日受付けており、件数は増加傾向です。



腎臓病教室



紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通) / FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30~17:00



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

病院ホームページ

検索

